

ロータリーの矛盾

田辺 植田 増穂

当クラブではアディショナルクラブを設立準備中のところ、ようやくチャーターメンバー予定者二十数名が揃い、初めての会合を開いた。以下は、その時の、インフォメーションの一節である。

私は今回の新クラブの設立に際し、二、三の方々をお誘いし、話し合いをしましたが、その時「一体、ロータリークラブでは何をするといいですか」という質問をしばしば受けました。この質問ほど、解答のし難いものはありません。ロータリークラブは決して、寄附団体でもないし、慈善団体でもない。また社会奉仕団体でも親睦社交の団体でもないからです。私は、以下のようにお答えしてきましたが、いかがでしょうか。

只今「ロータリーの友」という雑誌を回覧しますが、その中に、写真入りで色々の社会奉仕活動の様子が掲載されていますが、それらは決して、ロータリークラブ本来の活動とは申せません。ロータリークラブの本質的活動は、クラブとしてではなく、クラブのメンバーが、個々に自己の職業を通じて、「奉仕

の理想」を実現することを目的としております。主たる活動はクラブの団体としてではなく、クラブを構成する個人個人であります。例えば、例会を開いて親睦を深め、社会奉仕の認識を高めるための勉強会を開くのは、あくまで補助的な役割を果たしているにすぎず本質的目的は個人個人の活動であります。

第三者から見ると、ロータリーは単なる昼食会だと誤解されるのは、この団体の現象面を眺めて本質を理解されていないからです。

どうか皆さん、目的と手段とはっきり区別し、毎週の例会に行われる現象的活動をもって、これがロータリークラブ本来の目的だと誤解なされないように、特に御注意申し上げます。

列席のチャーターメンバー諸君は、わかったような、わからないような、狐にでも騙されたような、怪訝な顔付きをして質問すら出なかった。それもその筈です。私自身、何とまあ、矛盾に満ちた団体の性格だと思ひながら説明したのですから。

およそ人の集団である団体とか会とかは、必ずその団体なり、会としての目的をもち、それぞれの行動基準が規定されています。

ロータリークラブのように、その本来の目的は、団体を構成する個人個人の活動であって団体としての活動はその方法にすぎないと

いう性格も珍しい「不思議な存在」ですが、この不思議な珍しい、矛盾に満ちた性格の団体が、何時までも永く続いていることも亦珍しく不可思議なことでもあります。